

市民のスキルを生かした地域課題の解決

信州えんぱーく大学構想

～実践的な「知恵の交流を通じた人づくりの場」として～



2014.05.10
プロボノグループ パレット

プロボノグループ パレット

「人々が持つスキルや知識を、社会のために還元する仕組みを作ることが、よりよい地域づくりの推進に役立つ」を理念とし、

じぶんが持つスキルや知識を活かして社会貢献をする**プロボノ**活動を通じて、市民の「**パラルキャリア**」化の推進をしている団体です。

市民も地域も**ぴちぴち**している社会

背景

社会的側面

- 少子高齢化で**労働力が減少**
- 震災などの天変地異

企業的側面

- 終身雇用の崩壊
- 企業内だけでは個人のスキルが十分に生かせない
- 定年とスキルは関係無い

リスク、不確実性の拡大

- 行政のみに頼ったの社会サービスの限界
- 様々な社会サービスのニーズの増加

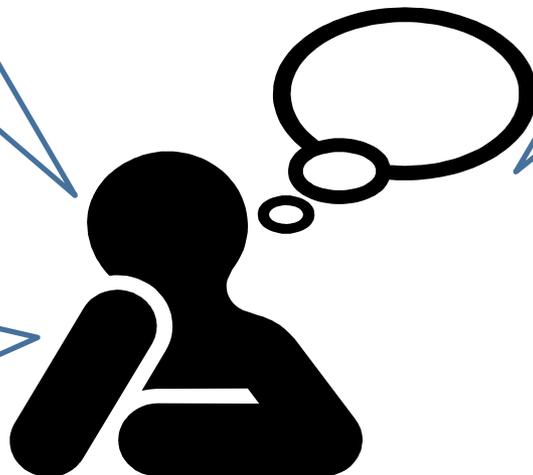
潜在的労働力、活用が限定されていたスキルなどの
これまで生かしてこなかった市民のスキルを生かさないと
行政だよりの地域課題解決は困難

スキルを生かす「仕組み」が必要

「じぶんの持ってるスキルを披露する場がない」

「えんぱーくで講座ができるみたいだがやり方がわからない」

「自分だけで集客からセミナーまでやるのは大変」



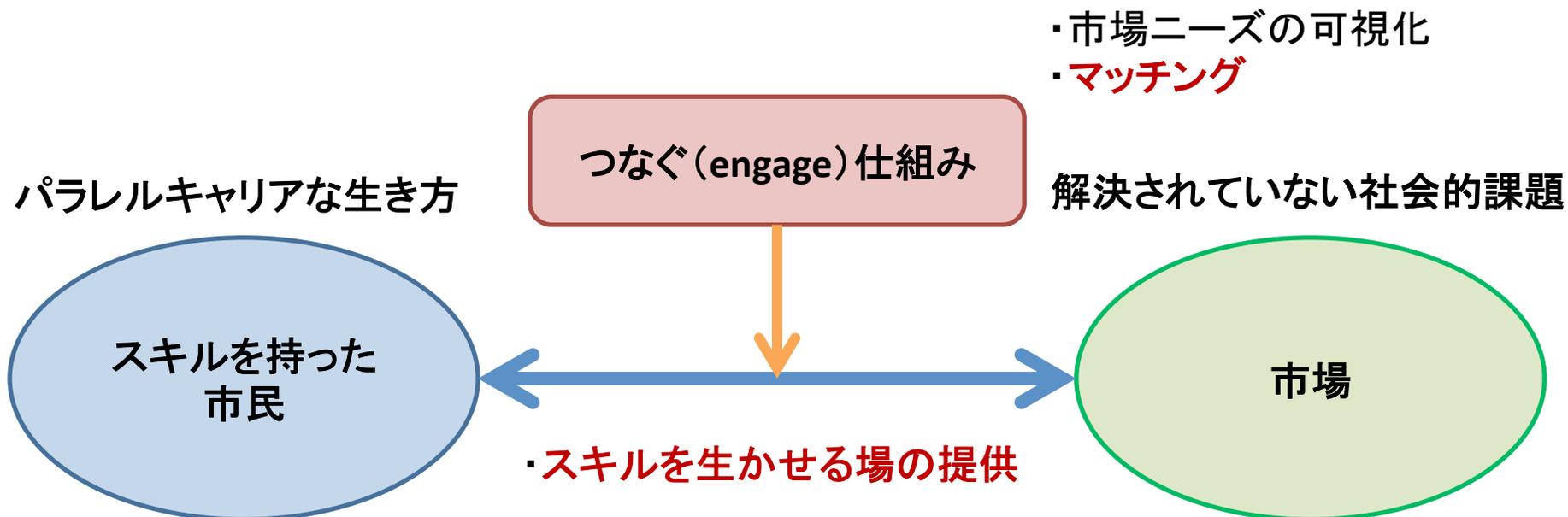
なかなか最初の1歩が踏み出せず
社会に還元されていない状況。

市民大学のコンセプト

場(BA)の提供と醸成者(Enabler)としての役割
そして、市民に実際に体験(実践)してもらう

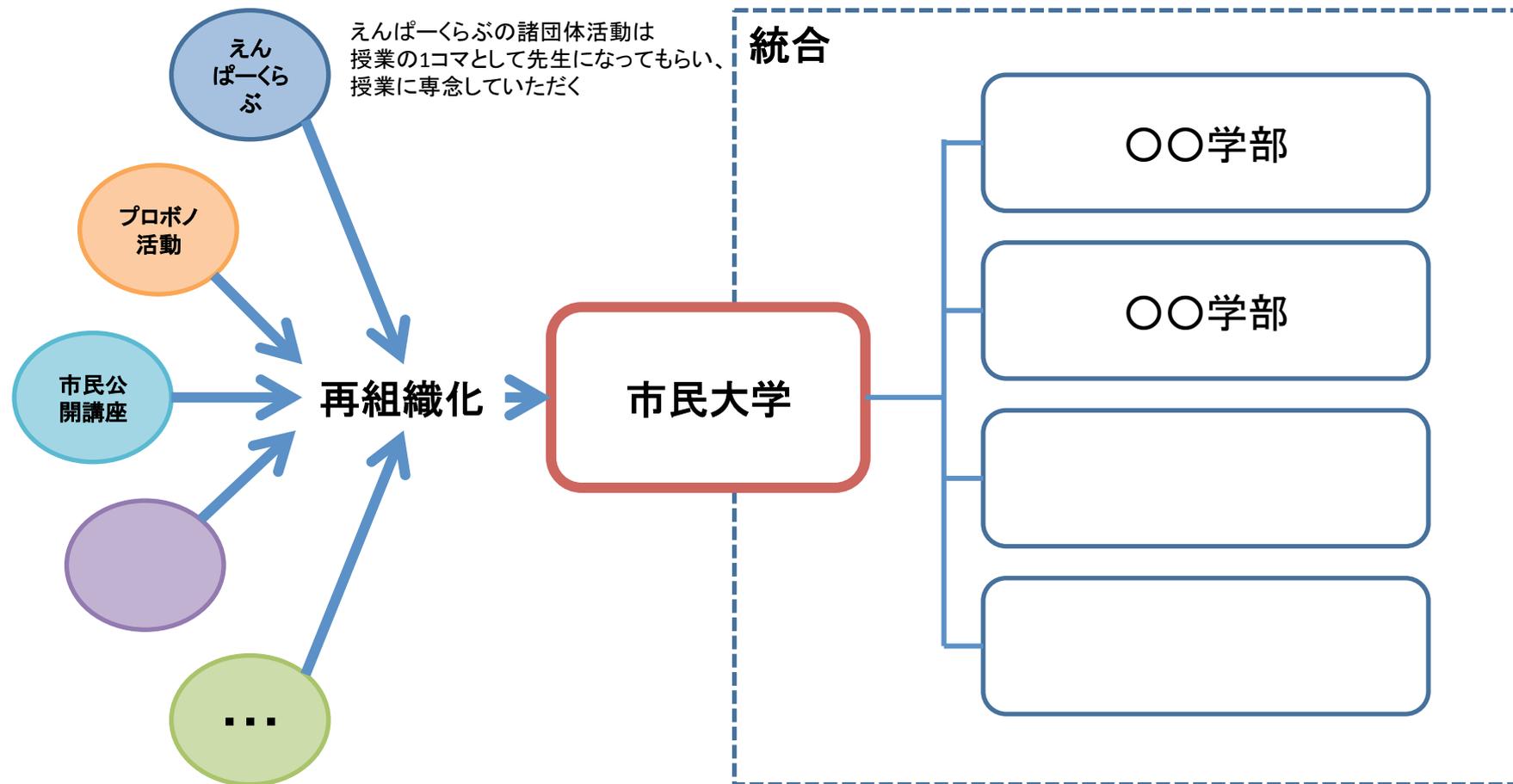
- 市民のスキルを**生かす場**の提供により、市民がじぶんのスキルを生かした社会活動ができる(**プロボノ**体験)
- 事務局による講師スキル、カリキュラム、集客のサポート
- **市民**が先生、**市民**が生徒
- 多様な市民の交流することで、地域社会の課題に**気づいて**もらう場

市民のスキルを生かすための マーケティングと教育



- ①スキルや知識を持つ個人が、自らの価値を認識していること
- ②そのスキルや知識が、社会のどのような課題の解決に役立つかを理解していること
- ③そのスキルや知識を、どのように周知・PRすべきかを理解していること

再組織と統合



断片化している様々な活動

「市民大学」という枠組みを利用し、全体を俯瞰した活動の機会を市民に提供する

スケジュール

1年 Ⅳ 調査・検討

- ・塩尻での「市民大学」のあり方の検討
- ・先行事例の調査
- ・検討の市民への周知

2年 Ⅳ 準備・試行

- ・先行事例から運営ノウハウを習得
- ・授業を試行する(MVP)
- ・フィードバックから転換し、具体化する
- ・市民講師の拡大
- ・プレ開校の準備

3年 Ⅳ プレ開校

- ・再度試行を実施、市場と接近する
- ・運営母体の盤石化→一般社団法人化
- ・行政との委託についての調整

LeanStartup手法により
MVPを用いた実験を繰り返し
市場に適合させる



こんなになったらいいなあ
未来のえんぱーく

実践的な 「知恵の交流を通じた人づくりの場」 としての

「市民大学」、えんぱーく



施設がいいから集まる→あの人に会えるから集まるへ